

修士論文 (要旨)

2014年1月

ポップ・カルチャーから見るイギリス社会の一断面  
—ジェームズ・ボンドを通して考察する現代のジェントルマンシップ—

指導 原田 美知子 教授

言語教育研究科

英語教育専攻

211J3052

桑原 佑典

## 目次

序章	1
1. 本研究の立脚点と問題の所在	1
2. 本研究の目的	2
<b>第1章 ジェントルマンの特徴とその教育</b>	<b>4</b>
<b>第1節 ジェントルマンの人物像</b>	<b>4</b>
1.1 ジェントルマンの定義	4
1.2 ジェントルマンと階級	6
1.3 ジェントルマンの成り立ち	8
1.3.1 上流階級：貴族	8
1.3.2 ジェントリーからジェントルマンへ	8
1.3.3 貴族を含めた「狭義のジェントルマン」	10
1.3.4 アッパーミドルを含めた「広義のジェントルマン」	11
1.4 ジェントルマンのルーツ	11
<b>第2節 ジェントルマンの特徴</b>	<b>12</b>
2.1 振る舞い	12
2.2 紋章	13
2.3 ライフスタイル	14
2.3.1 衣服	14
2.3.2 食生活	15
2.3.3 住居	15
2.3.4 余暇	16
2.3.5 クラブ	17
2.4 ユーモア	18
<b>第3節 ジェントルマンの教育</b>	<b>19</b>
3.1 騎士教育から家庭教育へ	19
3.2 イギリスの学校制度	20
3.3 パブリック・スクール	22
3.3.1 パブリック・スクールの起源と発展	22
3.3.2 学校生活	24
3.4 オックスブリッジ	25
3.4.1 オックスフォード大学とケンブリッジ大学	25
3.4.2 オックスブリッジの名の由来	26
3.4.3 授業形態	27
<b>第2章 ジェームズ・ボンドの歴史</b>	<b>28</b>
<b>第1節 ジェームズ・ボンドの誕生</b>	<b>28</b>
1.1 原作者：イアン・フレミング	28

1.2	ジェームズ・ボンドのモデル	30
1.3	作品の執筆	31
<b>第2節 小説と映像作品</b>		<b>33</b>
2.1	小説	33
2.1.1	イアン・フレミングの作品	33
2.1.2	キングズリー・エイミス (ロバート・マーカム) の作品	35
2.1.3	ジョン・ピアースンの作品	36
2.1.4	クリストファー・ウッドの作品	36
2.1.5	ジョン・ガードナーの作品	37
2.1.6	レイモンド・ベンソンの作品	38
2.1.7	チャーリー・ヒグソンの作品	39
2.1.8	セバスチャン・フォークスの作品	40
2.1.9	ジェフリー・ディーヴァーの作品	41
2.1.10	ウィリアム・ボイドの作品	41
2.2	テレビドラマ	42
2.3	映画作品	43
2.3.1	イオン・プロダクションの作品	43
2.3.2	番外編：『007／カジノ・ロワイヤル』	45
2.3.3	リメイク作品：『ネバーセイ・ネバーアゲイン』	46
<b>第3節 ジェームズ・ボンドの人物像</b>		<b>46</b>
3.1	ジェームズ・ボンドの基本情報	46
3.2	ジェームズ・ボンドの経歴	47
3.3	ジェームズ・ボンドの職業	48
3.4	ジェームズ・ボンドの流儀	49
<b>第4節 映画におけるジェームズ・ボンド</b>		<b>50</b>
4.1	ショーン・コネリー	50
4.2	ジョージ・レーゼンビー	51
4.3	ロジャー・ムーア	51
4.4	ティモシー・ダルトン	52
4.5	ピアース・ブロスナン	52
4.6	ダニエル・クレイグ	53
<b>第3章 ジェームズ・ボンドを通して考察する現代のジェントルマンシップ</b>		<b>55</b>
<b>第1節 ジェントルマンとスパイの関係</b>		<b>55</b>
1.1	イギリスにおけるスパイの歴史	55
1.2	スパイの適性	56
1.3	スパイからインテリジェンスへ	57
<b>第2節 ジェントルマンが対決する敵</b>		<b>58</b>
2.1	ジェントルマンの敵	58
2.2	ジェームズ・ボンドの敵	58

2.2.1 冷戦下における敵	58
2.2.2 敵の描写における古典的要素	59
2.2.3 冷戦終焉後の敵	61
第3節 ジェームズ・ボンドにおけるジェントルマンの要素	63
3.1 ジェームズ・ボンドの家系	63
3.2 ユーモア	65
3.2.1 ジョーク	65
3.2.2 諷刺	67
3.2.3 皮肉	68
3.2.4 二重の意味を持つ言葉	69
3.2.5 控えめ表現	72
3.3 女性に対する姿勢	73
第4節 現代におけるジェントルマンシップ	76
4.1 ジェームズ・ボンドと戦後のイギリス社会	76
4.2 「殺しのライセンス」の意味	78
4.3 任務遂行の目的	80
終章	85
1. 今日におけるジェントルマンの定義	85
2. 本研究の応用性	86
3. 今後の課題	86
付録 映画『007』シリーズフィルモグラフィ	87
注	113
参考文献	120
参考資料	123
映像資料	126
謝辞	128

## 要旨

“Ladies and gentlemen!”と演説などで用いられる表現として浸透しているジェントルマン。周知の通り、ジェントルマン (gentleman) という語を和訳すると紳士というものになるが、「英国紳士」という表現が存在するように、イギリスという国とジェントルマンとは密接な関係がある。一方、作家のイアン・フレミング (Ian Fleming) が創作したジェームズ・ボンド (James Bond) といえば、「007」のコードネームを持つ架空のスパイである。フレミングが執筆した 12 冊の長編小説と、2 冊の短編小説との他に、2014 年現在までに 23 作の映画が製作されている。イギリス国内に限らず、世界中で絶大な人気を誇るボンドは、しばしば紳士と表現される。ボンドは本当にジェントルマンといえるのだろうか。

本稿の趣旨は、ジェームズ・ボンドというキャラクターを通してイギリス社会の一断面を見るという異文化理解である。先述したジェントルマンとはどのような人物を指すのだろうか。時代によって定義が異なり、貴族とも異なる。具体的に説明することが困難であるうえ、ジェントルマンを理解するためには歴史的な知識を要するものである。さらに、ジェームズ・ボンドは任務を遂行する際に対決する敵を殺める。人を殺めるという行為は人間として許されるのだろうか。彼はなぜジェントルマンとして人気を保持し続けるのだろうか。以上のことから、本稿では研究の目的を 3 点挙げる。

- (1) ジェントルマンの歴史をひも解き、ジェントルマンの人物像、特徴、教育の 3 点を概観する。
- (2) 小説と映画とを通して、ジェームズ・ボンドの歴史を調査する。
- (3) ジェームズ・ボンドの描写を参考に、現代におけるジェントルマンの定義を考察する。

以上の 3 点を基に、本稿は 3 章立てとし、それぞれの目的を第 1 章から第 3 章にて論じる。第 1 章「ジェントルマンの特徴とその教育」では、目的 (1) を中心として、ジェントルマンの人物像、特徴、教育の 3 点について論じる。ジェントルマンの成り立ちという歴史的側面を概観し、ジェントルマンのライフスタイル、教育機関であるパブリック・スクールや高等教育機関 (オックスフォード大学とケンブリッジ大学) などを取り上げる。

第 2 章「ジェームズ・ボンドの歴史」では、目的 (2) を中心として、原作者及び小説・映画のすべての作品、原作におけるボンドの人物像、映画での描写の 3 点について論じる。原作者のイアン・フレミングはどのような経緯でボンドを創作したのか、フレミング以外の作家がどのような小説を執筆したのか、映画におけるボンドはどのような俳優が演じ、特徴があるのかということを探る。

第 3 章「ジェームズ・ボンドを通して考察する現代のジェントルマンシップ」では、目的 (3) を中心として、ボンドの描写を参考として、現代におけるジェントルマンの姿を論じる。ジェントルマンとスパイという 2 点には何か関連するものがあるのかということ論じ、ボンドの家系やユーモア、さらに女性に対する姿勢からジェントルマンの要素を浮き彫りにし、終章において現代におけるジェントルマンの定義を考察する。

## 参考文献

- 青山吉信・今井宏・越智武臣・松浦高嶺編 (1973)『イギリス史研究入門』東京：山川出版社。
- 青山吉信・今井宏編 (1982)『概説イギリス史：伝統的理解をこえて』東京：有斐閣。
- 新井潤美 (2009)「第2章 階級制度のウチとソト 11 階級—話し方ですべてがわかる」『イギリス文化 55 のキーワード』木下卓・窪田憲子・久守和子編 京都：ミネルヴァ書房. pp. 48-51.
- 新井潤美 (2009)「第2章 階級制度のウチとソト 12 ジェントルマン—この曖昧なるもの」『イギリス文化 55 のキーワード』木下卓・窪田憲子・久守和子編 京都：ミネルヴァ書房. pp. 52-55.
- 飯田操 (2005)『イギリスの表象：ブリタニアとジョン・ブルを中心として』京都：ミネルヴァ書房。
- 池田潔 (2008)『自由と規律—イギリスの学校生活』東京：岩波書店。
- 板倉巖一郎・バートン, スーザン・K・小野原教子 (2008)『映画でわかるイギリス文化入門』東京：松柏社。
- 織田元子 (1999)『ステッキと山高帽 ジェントルマン崇拜のイギリス』東京：勁草書房。
- 金澤周作 (2010)「第6章 19世紀」『イギリス史研究入門』近藤和彦編 東京：山川出版社. pp. 128-153.
- 唐澤一友 (2008)『他民族の国イギリス：4つの切り口から英国史を知る』東京：春風社。
- 川島昭夫 (2003)「第5章 前工業化時代の生活と文化」『イギリス近代史[改訂版]』村岡健次・川北稔編 京都：ミネルヴァ書房. pp. 99-123.
- 川成洋 (2007)『紳士の国のインテリジェンス』東京：集英社。
- 木下卓 (2009)「第5章 青少年と教育システム 38 グランド・ツアー—教育の仕上げの壮大なる旅」『イギリス文化 55 のキーワード』木下卓・窪田憲子・久守和子編. 京都：ミネルヴァ書房. pp. 168-171.
- 朽木ゆり子 (2002)『マティーニを探偵する』東京：集英社。
- 窪田憲子 (2009)「第2章 階級制度のウチとソト Introduction」『イギリス文化 55 のキーワード』木下卓・窪田憲子・久守和子編. 京都：ミネルヴァ書房. pp. 41-43.
- 黒川敬三 (2009)「第2章 階級制度のウチとソト 14 スパイ—イギリス外交戦略の要」『イギリス文化 55 のキーワード』木下卓・窪田憲子・久守和子編 京都：ミネルヴァ書房. pp. 60-63.
- 小谷賢 (2004)『イギリスの情報外交 インテリジェンスとは何か』東京：PHP 研究所。
- 小谷賢 (2012)『インテリジェンス—国家・組織は情報をいかに扱うべきか』東京：筑摩書房。
- 小林章夫 (2011)『イギリス紳士のユーモア』東京：講談社。
- 桜井俊彰 (2010)『イングランド王国前史：アングロサクソン七王国物語』東京：吉川弘文館。
- 指昭博 (1994)「第2章 人びとを隔てる壁」『イギリス文化史入門』井野瀬久美恵編 東京：昭和堂. pp. 27-44.

- ジーガー, ヘンリー・A (1966) 『007 は死せず イアン・フレミング伝』 井上一夫訳 東京：荒地出版社.
- 瀬高文広 (2010) 「第 5 章 17 世紀」『映画で楽しむイギリスの歴史』 吉田徹夫・村里好俊・瀬高文広編. 東京：金星堂. pp. 109-128.
- 橋口稔 (1986) 『イギリスの言語文化』 東京：日本放送出版協会.
- 高階玲子 (2009) 「第 2 章 階級制度のウチとソト 10 王室—時代と共に」『イギリス文化 55 のキーワード』 木下卓・窪田憲子・久守和子編 京都：ミネルヴァ書房. pp. 44-47.
- 滝口明子 (2009) 「第 3 章 暮らしを彩るモノたち 19 紅茶／コーヒー—人生を楽しくするもの」『イギリス文化 55 のキーワード』：木下卓・窪田憲子・久守和子編 京都：ミネルヴァ書房. pp. 84-87.
- 田窪寿保 (2011) 『ジェームズ・ボンド 仕事の流儀』 東京：講談社.
- 田窪寿保 (2012) 『ジェームズ・ボンド 「本物の男」 25 の金言』 東京：講談社.
- 田中 亮三 (2009) 『図説英国貴族の暮らし』 東京：河出書房.
- 鶴島博和 (2010) 「第 2 章 ローマン・ブリテン～10 世紀」『イギリス史研究入門』 近藤和彦編. 東京：山川出版社. pp. 26-47.
- 出島有紀子 (2006) 「イギリス社会史・文化史の世界へ—人びとの生き方と大英帝国の遺産」『英語世界へのアプローチ』 東京：三修社. pp. 119-137.
- 富沢霊岸 (1996) 『イギリス中世文化史』 京都：ミネルヴァ書房.
- 中藪英助 (1992) 『スパイの世界』 東京：岩波書店.
- 中野葉子 (2002) 「第 8 章 ジェントルマンのたしなみ」『概説イギリス文化史』 佐久間康夫・中野葉子・太田雅孝編. 京都：ミネルヴァ書房. pp. 158-180.
- 中野葉子 (2009) 「第 5 章 青少年と教育システム 39 オックスブリッジ—知の双璧」『イギリス文化 55 のキーワード』 木下卓・窪田憲子・久守和子編 京都：ミネルヴァ書房. pp. 172-175.
- 西川吉光 (2012) 『イギリス学入門 訪ね、知り、楽しもうジェントルマンの国』 奈良：萌書房.
- 村岡健次 (2002) 『近代イギリスの社会と文化』 京都：ミネルヴァ書房.
- 森護 (1985) 『“紋章の国”イギリスの旅』 東京：日本放送出版協会.
- 森護 (1998) 『紋章学辞典』 東京：大修館書店.
- 森住衛 (2004) 『単語の文化的意味 friend は「友だち」か』 東京：三省堂.
- ロザーティ, サイモン (2007) 『現代イギリスの暮らしと文化』 東京：英宝社.
- Amis, Kingsley (1965) *James Bond Dossier* London: Jonathan Cape Ltd.
- Blouet, Olwyn M. (1988) “Public Schools” *Victorian Britain: An Encyclopedia* (ed.) Mitchell, Sally. New York & London: Garland Publishing. pp. 651-652.
- Chapman, James (2000) *Licence to Thrill: A Cultural History of James Bond Films* London: Columbia University Press.
- Cooper, Jilly (2005) *Class* London: Corgi Publishing.
- Dougall, Alastair (2010) *The Book of Bond* London: Dorling Kindersley.
- Fishman, Jack (1965) “007 and Me” *For Bond Lovers Only* (ed.) Lane, Sheldon. New York: Dell Publishing.

- Harrison, William (2012) *Elizabethan England From 'A Description England'* Memphis: General Books.
- Lawton, Denis & Gordon, Peter (1993) *Dictionary of Education* London: Hodder & Stoughton.
- Mason, Philip (1982) *The English Gentleman: The Rise and Fall of an Ideal* London: Andre Deutsch.
- Mikes, George (1980) *English Humour for Beginners* London: Andre Deutsch Ltd.
- Moore, Roger (2012) *Bond on Bond: The Ultimate Book on 50 Years of James Bond Movies* London: Michael O'Mara Books.
- Nourmand, Tony (2001) *James Bond Movie Posters* San Francisco: Chronicle Books.
- Savage, Gail L. (1988) "Gentleman" *Victorian Britain: An Encyclopedia* (ed.) Mitchel, Sally. New York & London: Garland Publishing. pp. 325-326.
- Seiler, Robert M. (1988) "Oxford University" *Victorian Britain: An Encyclopedia* (ed.) Mitchel, Sally. New York & London: Garland Publishing. pp. 567-568.
- Sutherland, Douglas (1978) *The English Gentleman* London: Debrett's Peerage Ltd.
- Uden, Grant (1969) *A Dictionary of Chivalry* New York: Thomas Y. Crowell Company.
- Wiener, Martin J. (2004) *English Culture and the Decline of the Industrial Spirit, 1580 ~1980* Cambridge: Cambridge University Press.
- Zeiger, Henry A. (1965) *Ian Fleming: The Spy Who Came in with the Gold* New York: Popular Library.

## 参考資料

### 辞書

*LONGMAN Dictionary of Contemporary English Fourth Edition* Harlow: Longman  
*The Oxford English Dictionary Second Edition Volume II* Oxford: Clarendon Press.  
*The Oxford English Dictionary Second Edition Volume V* Oxford: Clarendon Press.  
*The Oxford English Dictionary Second Edition Volume VI* Oxford: Clarendon Press.  
*The Oxford English Dictionary Second Edition Volume VII* Oxford: Clarendon Press.  
*The Oxford English Dictionary Second Edition Volume XI* Oxford: Clarendon Press.  
*The Oxford English Dictionary Second Edition Volume XVI* Oxford: Clarendon Press.

小説（著者名はアイウエオ順及びアルファベット順であるが、作品は執筆された順番とする。）

ウッド, クリストファー (1977) 『新・私を愛したスパイ』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
ウッド, クリストファー (1979) 『007 とムーンレイカー』井上一夫訳 東京: 創元社.  
ガードナー, ジョン (1985) 『メルトダウン作戦』高見浩訳 東京: 文藝春秋.  
ガードナー, ジョン (1995) 『紳士らしく死ね』後藤安彦訳 東京: 文藝春秋.  
ディーヴァー, ジェフリー (2011) 『007 白紙委任状』池田真紀子訳 東京: 文藝春秋.  
ピアソン, ジョン (1987) 『ジェイムズ・ボンド伝』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
ヒグソン, チャーリー (2007) 『ヤング・ボンド』伏見威蕃訳 東京: 学習研究社.  
フォークス, セバスチャン (2008) 『007 猿の手を持つ悪魔』佐々木紀子訳 東京: 竹書房.  
フレミング, イアン (2000) 『007/カジノ・ロワイヤル』井上一夫訳 東京: 創元社.  
フレミング, イアン (1976) 『死ぬのは奴らだ』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
フレミング, イアン (1964) 『ムーンレイカー』井上一夫訳 東京: 創元社.  
フレミング, イアン (1960) 『ダイヤモンドは永遠に』井上一夫訳 東京: 創元社.  
フレミング, イアン (1964) 『ロシアから愛をこめて』井上一夫訳 東京: 創元社.  
フレミング, イアン (1959) 『ドクター・ノオ』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
フレミング, イアン (1960) 『ゴールドフィンガー』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
フレミング, イアン (1964) 『007 号の冒険』井上一夫訳 東京: 創元社.  
フレミング, イアン (2007) 『007/薔薇と拳銃』井上一夫訳 東京: 創元社.  
フレミング, イアン (1962) 『サンダーボール作戦』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
フレミング, イアン (1963) 『わたしを愛したスパイ』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
フレミング, イアン (1963) 『女王陛下の 007 号』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
フレミング, イアン (1964) 『007 号は二度死ぬ』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
フレミング, イアン (1965) 『007 号/黄金の銃をもつ男』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
フレミング, イアン (1966) 『007 号/ベルリン脱出』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
フレミング, イアン (1983) 『オクトパシー』井上一夫訳 東京: 早川書房.  
ベンソン, レイモンド (2002) 『007/ゼロ・マイナス・テン』小林浩子訳 東京: 早川書房.  
ベンソン, レイモンド (2004) 『007/ファクト・オブ・デス』小林浩子訳 東京: 早川書房.  
ベンソン, レイモンド (2005) 『007/ハイタイム・トゥ・キル』小林浩子訳 東京: 早川書

房.

ベンソン, レイモンド (2003) 『007／赤い刺青の男』 小林浩子訳 東京：早川書房.

マーカム, ロバート (1986) 『007／孫大佐』 永井淳訳 東京：早川書房.

Boyd, William (2013) *Solo* London: Jonathan Cape Ltd.

Fleming, Ian (2002) *Casino Royale* London: Penguin Books.

Fleming, Ian (2012) *From Russia with Love* London: Vintage Books.

Fleming, Ian (2012) *On Her Majesty's Secret Service* Vintage Books.

Fleming, Ian (2002) *You Only Live Twice* London: Penguin Books.

#### 雑誌

『007 COMPLETE GUIDE ジェームズ・ボンドはお好き?』 (2012) 東京：マガジンハウス.

『キネマ旬報 12 月下旬号』 (2012) 東京：キネマ旬報社.

『ハヤカワミステリマガジン 11 月号』 (2000) 東京：早川書房.

『ハヤカワミステリマガジン 10 月号』 (2008) 東京：早川書房.

*50 Years of James Bond* (2012) New York: Life Books.

#### 書籍

フジテレビ トリビア普及委員会編 (2002) 『トリビアの泉～へえの本～第 I 巻』 東京：講談社.

Nourmand, Tony (2001) *James Bond Movie Posters* San Francisco: Chronicle Books.

#### 劇場用プログラム

イオン・プロダクション製作の『007』シリーズ

『007／危機一発』 劇場用プログラム (1964) 東京：東宝.

『007／ドクター・ノオ』 劇場用プログラム (1972) 東京：東宝.

『007／ロシアより愛をこめて』 劇場用プログラム (1972) 東京：東宝.

『007／ゴールドフィンガー』 劇場用プログラム (1965) 東京：東宝.

『007／サンダーボール作戦』 劇場用プログラム (1965) 東京：東宝.

『007 は二度死ぬ』 劇場用プログラム (1967) 東京：東宝.

『女王陛下の 007』 劇場用プログラム (1969) 東京：東宝.

『007／ダイヤモンドは永遠に』 劇場用プログラム (1971) 東京：東宝.

『007／死ぬのは奴らだ』 劇場用プログラム (1973) 東京：東宝.

『007／黄金銃を持つ男』 劇場用プログラム (1974) 東京：東宝.

『007／私を愛したスパイ』 劇場用プログラム (1977) 東京：東宝.

『007／ムーンレイカー』 劇場用プログラム (1979) 東京：東宝.

『007／ユア・アイズ・オンリー』 劇場用プログラム (1981) 東京：東宝.

『007／オクトパシー』 劇場用プログラム (1983) 東京：東宝.

『007／美しき獲物たち』 劇場用プログラム (1985) 東京：東宝.

『007／リビング・デイライツ』劇場用プログラム (1987) 東京：東宝.  
『007／消されたライセンス』劇場用プログラム (1989) 東京：東宝.  
『007／ゴールデンアイ』劇場用プログラム (1995) 東京：東宝.  
『007／トゥモロー・ネバー・ダイ』劇場用プログラム (1998) 東京：東宝.  
『007／ワールド・イズ・ノット・イナフ』劇場用プログラム (2000) 東京：東宝.  
『007／ダイ・アナザー・デイ』劇場用プログラム (2003) 東京：東宝.  
『007／カジノ・ロワイヤル』劇場用プログラム (2006) 東京：東宝.  
『007／慰めの報酬』劇場用プログラム (2009) 東京：東宝.  
『007／スカイフォール』劇場用プログラム (2012) 東京：東宝.

イオン・プロダクション以外の会社が製作した『007』

『007／カジノ・ロワイヤル』劇場用プログラム (1967) 東京：東宝.  
『ネバーセイ・ネバーアゲイン』劇場用プログラム (1983) 東京：東宝.

その他の資料

『007／私を愛したスパイ』DVD用ブックレット  
『007／カジノ・ロワイヤル』劇場用リーフレット  
『007 白紙委任状』リーフレット

## 映像資料 (製作年順)

### イオン・プロダクション製作の『007』シリーズ

- Dr. No* (1962) Dir. Young, Terence. Eon Production.  
*From Russia with Love* (1963) Dir. Young, Terence. Eon Production.  
*Goldfinger* (1964) Dir. Hamilton, Guy. Eon Production.  
*Thunderball* (1965) Dir. Young, Terence. Eon Production.  
*You Only Live Twice* (1967) Dir. Gilbert, Lewis. Eon Production.  
*On Her Majesty's Secret Service* (1969) Dir. Hunt, Peter. Eon Production.  
*Diamonds Are Forever* (1971) Dir. Hamilton, Guy. Eon Production.  
*Live and Let Die* (1973) Dir. Hamilton, Guy. Eon Production.  
*The Man with the Golden Gun* (1974) Dir. Hamilton, Guy. Eon Production.  
*The Spy Who Loved Me* (1977) Dir. Gilbert, Lewis. Eon Production.  
*Moonraker* (1979) Dir. Gilbert, Lewis. Eon Production.  
*For Your Eyes Only* (1981) Dir. Glen, John. Eon Production.  
*Octopussy* (1983) Dir. Glen, John. Eon Production.  
*A View to a Kill* (1985) Dir. Glen, John. Eon Production.  
*The Living Daylights* (1987) Dir. Glen, John. Eon Production.  
*Licence to Kill* (1989) Dir. Glen, John. Eon Production.  
*Goldeneye* (1995) Dir. Campbell, Martin. Eon Production.  
*Tomorrow Never Dies* (1997) Dir. Spottiswoode, Roger. Eon Production.  
*The World Is Not Enough* (1999) Dir. Apted, Michael. Eon Production.  
*Die Another Day* (2002) Dir. Tamahori, Lee. Eon Production.  
*Casino Royale* (2006) Dir. Campbell, Martin. Eon Production.  
*Quantum of Solace* (2008) Dir. Forster, Marc. Eon Production.  
*Skyfall* (2012) Dir. Mendes, Sam. Eon Production.

### イオン・プロダクション以外の会社が製作した『007』

- Casino Royale* (1967) Dir. Hughes, Ken. & Huston, John. & McGrath, Joseph. & Parrish, Robert. & Talmadge, Richard. Famous Artists Production.  
*Never Say Never Again* (1983) Dir. Kershner, Irvin. PSO International.

### 『007』シリーズ以外の映画

- DragonHeart* (1996) Dir. Cohen, Rob. Universal Pictures.  
*Shakespeare in Love* (1998) Dir. Madden, John. Universal Pictures.  
*George and the Dragon* (2004) Dir. Reeve, Tom. ApolloMedia Distribution.  
*Austin Powers in Goldmember* (2002) Dir. Roach, Jay. New Line Cinema.

### ドキュメンタリー映像

- The Goldfinger Phenomenon* (1995) Dir. Cork, John. MGM/UA Home Entertainment.

*The Making of Thunderball* (1995) Dir. Cork, John. MGM/UA Home Entertainment.

*Ian Fleming* (2000) Dir. Cork, John. MGM Home Entertainment.

*Inside Dr. No* (2000) Dir. Cork, John. MGM Home Entertainment.